理科「人や他の動物の体」　６年（　）組　氏名（　　）

【学習の進め方】
- ①～⑥の順番で進め、各プリントの（１）から進めましょう。基本的には１つを４５分間で行うプログラムになっています。
- わからないところは、教科書を見たり、おうちの方に聞いたりしてもかまいません。または、登校日に先生に聞くようにしてください。

「人や他の動物の体」③　～人や他の動物と食べ物のかかわり～

単元の最初の学習で、「人や他の動物は、体の中で食べ物の養分や水をどのようにして取り入れているのか」について考えました。人や他の動物が食べ物を食べて、そのままの色や形で便として出てくることはありませんよね？ということは、口に入れてから食べ物はどんどん変化していっているということなのでしょうか？身近な例だと、口の中に食べ物を入れてよくかんでいると、自然とだ液が出てきますよね。

では、だ液には食べ物を変化させる働きがあるのでしょうか。ご飯をかんだ時の様子を想像しながら、だ液のはたらきを考えて調べていきましょう。

（１）ご飯は、だ液のはたらきによって別のものに変化するのでしょうか？
（歯でご飯をかみくだくはたらきではなく、「だ液」のはたらきについてです。）

【予想】　別のものに変化する　・　別のものに変化しない
【理由】

では、だ液と水のちがいに注目して、考えてみましょう。

（２）だ液のはたらきによってご飯は別のものに変化しているのか、教科書Ｐ３８～４０を見て、頭の中で実験をしてみましょう。

（３）教科書の実験の結果をまとめましょう。

ヨウ素液はもともと、でんぷん（養分）をふくんだものにかけると、左の写真のように青むらさき色に変えるはたらきがある。

	ヨウ素液をかけると…	でんぷんは…
元々のご飯	青むらさき色	ある
↓	↓	↓
だ液を混ぜないもの	青むらさき色	（　　）
だ液を混ぜたもの	変化なし	（　　）

だ液を混ぜたものは、もともと米の中にあったでんぷんがなくなっていた…。つまり、「だ液」と「水」は（　別のもの　・　同じもの　）である。だ液には、でんぷん（養分）を別のものに変えるはたらきがある。

〈まとめ〉

（４）教科書Ｐ４１を見て、今日の学習についてのまとめをしましょう。

食べ物を口の中に入れて、歯でかむと、（　　）が出て、細かくくだかれた食べ物と混ざり合います。

そして、食べ物にふくまれる（　　）は、だ液のはたらきによって水にとけやすい養分に変化し、あまく感じられるようになります。

このように、食べ物を細かくかみくだいたり、体に吸収されやすい養分に変えたりすることを（　　）といいます。

また、だ液のように消化に関わっている液体を（　　）といいます。

（５）今日の学習を通して、分かったことや気づいたことを振り返り、さらに学びたいと思ったことや疑問に思ったことを書きましょう。